平成２９年度

学校評価票

東京成徳大学深谷中学・高等学校

本校の目指す教育	国家社会の進展に寄与できる実践力に富んだ有徳な人物の育成を目指して、おおらかな徳操、高い知性、健全なる身体、勤労の精神、実行の勇気を涵養し鍛錬する。
本年度の重点目標	1　基本的な生活習慣を身につけた礼儀正しさ、自主的な生活態度を育てる。 2　充実した授業を通して、確かな学力の伸長を図る。 3　生徒の特性を生かす指導に努め、進路実現に意欲的に取り組む態度を育てる。 4　部活動を奨励し、たくましい心と体を育てる。 5　教育環境の美化に努め、施設・設備の充実に取り組む。

自己評価								学校関係者評価
	年度当初の状況				年度末の最終評価（３月）			実施日：平成 30 年 6 月 13 日
番号	評価項目	現 状・課 題	具体的な方策	評 価 指 標	経過・達成状況等	達成度	今後の課題と改善策	学校関係者からの評価等
1	授業	○多様化する生徒の進路希望に対応するため、それぞれのコースの目標に即した授業の展開が求められている。	○授業や家庭学習に対する生徒の意識や授業の満足度を把握するため、授業アンケートを前年度に引き続き実施し、さらなる授業改善に努める。	○授業や家庭学習に対する生徒の意識は向上したか。また、授業改善がきちんと行われ、生徒の授業満足度がさらに向上したか。	○アンケートを今年度も実施した。授業満足度の平均が５段階で 4.12、また 70%近い教員が 4.0 を超えるなど教員個々のレベルアップは図られた。	B	○入試改革を見据えつつ、各コースの目標を再設定し、その実現を可能にする授業作りを探求する。	○すぐ隣にある学校であり、卒業生もたくさん通っている学校なので、これからも同じ地域にある学校として共に歩んでいきたい。
		○来年度、中高一貫コースが高校３年生まで揃い、中高一貫コースが完成することになる。	○模試などの客観的指標を活用し、生徒の学力実態の把握に努め、学力向上に向けた授業改善に取り組む。	○模試などの客観的指標を活用し、生徒の学力実態を把握し、学力向上に向けた授業改善に取り組むことができたか。	○ベネッセによる分析会を学年ごとに行い、データの共有化を図ったが、それを授業改善につなげる努力が一層望まれる。	B	○模試や検定などの客観的指標を活用し、生徒の学力実態を把握し、学習指導の更なる改善に取り組む。	○部活動に実績が出て、成徳深谷が有名になるのは非常にうれしい。私学は部活動と進学実績が大事なので、今後もこうしたことに力をいれてほしい。
		○授業改善に取り組み、生徒向け授業アンケートでは、授業満足度平均が、５段階で 4.0 を超える教員が増えている。	○研究授業や互見授業を引き続き実施し、緊張感のある授業の展開を目指す。	○研究授業や互見授業が計画どおりに実施できたか。	○５月には授業互見期間を設け、月毎に研究授業・研究協議会を計画し、５教科が実施した。	B	○アクティブ・ラーニング型の授業の良さを研究するなどよりよい授業づくりを進める。	○本校の生徒は本当によく挨拶ができるが、今日玄関であった生徒から挨拶がなかった。来校者の印象は挨拶の有無で大きく変わるので、現在ももちろん指導はしているのだろうが、より一層、挨拶をする、靴をそろえるといった当たり前のことを当たり前にできるように生徒を指導してほしい。
		○チャイム・トゥ・チャイムの徹底をはじめ、落ち着いた環境の中で授業が受けられるように、授業規律の確立に取り組んでいる。	○チャイム・トゥ・チャイムの徹底を全教員で取り組み、授業規律の確立を目指す。	○チャイム・トゥ・チャイムへの取組が徹底できたか。	○チャイム・トゥ・チャイムは全教員が意識しており、ある程度達成されたと思われる。	A	○授業規律の確立についてはさらに調査、研究していく。	
		○中学校では生徒の個性や理解度に応じて、きめの細かい授業展開が求められている。このような中で数学・英語の２教科について、全ての学年で少人数や習熟度別授業を実施している。	○先進校視察や校外での研修に積極的に参加し、アクティブラーニング型の授業を職員全員が実施し、教員一人ひとりのスキル・アップに努める。	○外部の研修会に積極的に参加することによって、教員の授業力が向上し、個々のスキル・アップが図れたか。	○アクティブ・ラーニングに加え、高大接続やｅ-ポートフォリオの研修会等に多くの教員が参加し、入試改革への理解を深めた。	B	○職員研修会を実施し、学力の３要素を踏まえた評価の工夫などにより、教員の授業力アップと生徒の学習意欲・態度の向上に努める。	○昨年に引き続き、今年度もたくさんの生徒が入学したというのはとてもいいニュースであり、喜ばしい限りである。生徒が集まると部活動はもちろん、生徒会活動などもどんどん活発化していく。それが更に学校の活力となり、ますますの発展につながっていくので、このいい流れを大事にしてほしい。
2	進路指導	○長期休業中、校外勉強合宿に加え、特別講習を２期に分けて実施している。	○放課後講習や長期休業中の強化合宿や講習の充実を図る。模擬試験の結果を細かく分析し、その学習データをもとに徹底した個別指導を行う。	○放課後講習や長期休業中の講習の充実が図られ、徹底した個別指導を行うことによって、一般入試での合格実績が前年度を上回ることができたか。	○長期休業中、校外合宿に加え、特別講習を２期に分けて実施した。合格実績については現役進学・進路決定率は９８％となった。	C	○特別講習の目的を共有すると同時に合格実績に結びつくような指導の仕方を研究していく。	○保護者の気持ちをくみ上げる学校であってほしい。保護者が満足すれば、良い評判が口コミとなって広がり、さらに生徒が集まる学校になると思う。 ○チャイム・トゥ・チャイムを実践しているとのことなので、今後もしっかりと継続して取り組んでほしい。 ○スクールバスが無料で運行しているのはとてもよいと思う。秩父方面にバスが出せないのは、いろいろなことを考えると難しいようだが、できるとよいと思う。 ○サッカー部の活躍は目をみはるものがある。生徒たちの誇りにもなっている。入部する生徒はクラブチーム出身の者が増えているが、それらの生徒が必ずしもクラブチーム内でレギュラーだった訳ではない。そういう子たちが力を結束して県大会で優勝したというのはとてもすばらしいことだと思う。 ○サッカー部の健闘は見事だが、その一方で野球部がないのが非常にさびしい。是非野球部を復活させてもらいたい。それが学校の活性化にもつながるのではないか。
		○１・２年次の講習の講座数を増やし、模擬試験のデータを分析・活用し、実力アップに努めている。	○模擬試験の結果を細かく分析し、その学習データをもとに徹底した個別指導を行う。	○個別指導を行うことによって、一般入試に対応できる学力を養成することができたか。	○担任を中心に個に応じた指導を継続的に行ったが、全ての生徒の学力を大幅に高めることは困難であった。	B	○模試結果の共有など、教員間の連携を深め、より組織的に指導できる体制を作っていく。	
		○前年度に比べ、一般入試の受験者の絶対数が減少し、全体的な大学への合格者数は減少傾向にある。	○少なくとも、学期に１回の二者面談、年に１回（３年は２回）の三者面談を実施する。	○面談回数の定着が図られ、個に応じた進路指導を行うことができたか。	○各コースとも高みをめざさせるという意味では歩調を合わせて進路指導ができた。	B	○進学選抜コースも指定校推薦で大学受験できるようになるため、これまで以上にコース間の連携を深めていく。	
		○進路の多様化が進んでおり、個に応じた進路指導が求められている。	○生徒一人ひとりの進路希望を支援することを基本に、「伸びしろ」を大切にする視点での進路指導を進める。	○一人ひとりの生徒の高みを目指す具体的な目標が立てられ、進路実現へと結びつけることができたか。	○ガイダンスや面談を通じて個々の生徒と目標を共有し、進路実現へとつなげることができた。	A	○週末課題の定着、朝学習の一層の充実を図り、学力・意欲向上に努める。また、学校全体として、新テストに備え、先行準備し、態勢を整える。	
3	生徒指導	○ほとんどの生徒は、きちんとした服装や頭髪で学校生活を送ることができるようになってきた。校外でも自覚をするよう指導を重ねていく必要がある。	○全校一斉の服装や頭髪の確認を継続する。また、登校（下校）時には一人一人に声をかけ、挨拶を交わしながら、整容指導を徹底するとともに、温かい学校の雰囲気を醸成する。	○校内外において、生徒がきちんとした制服や頭髪で生活できたか。	○頭髪については目立った違反はなくなってきた。制服の正しい着用についても校内では概ね良好だった。	A	○頭髪や服装については、校外でもきちんとできるよう、引き続き全校での指導を継続する。年度途中に導入した個人貴重品ロッカーを十分に機能させる。	
		○スマホの学校への持ち込みは許可制で対応し、その使用法についても指導している。不用意な書き込み等で、トラブルが起きないよう指導を継続させる必要がある。	○いじめ防止法の制定を踏まえ、警察や業者などから外部講師を招き、講演会や講習会を実施し、好ましいスマホの使用法の徹底を図る。	○好ましいスマホの使用法を習得し、生徒が安心して気持ちよい毎日を送ることができたか。	○４・９月に中・高共にスマホ・ケータイの使用方法について指導した他、集会やHRでも継続的に指導しているが、何件かのトラブルは発生した。スマホ・ケータイ安全教室を９月に実施した。	B	○殆どの生徒がスマホを持つようになった昨今、ＳＮＳの使用方法・マナーについては、今後とも継続的に指導していく必要がある。	
			○本校の原点である「建学の精神」に基づき、生徒の良い行いについて積極的に評価できるよう努力する。	○生徒の善行やよくできている生活態度について取り上げ、評価することができたか。	○集会等を通して評価できた。	B	○努力を評価したり、ほめることの必要性についての認識をさらに深めていく。	

達成度　A：達成（ 100%）、B：概ね達成（75%）、C：達成途中（50%）、D：取り組みを開始（25%）、E：取り組めず（０%）